

漢ノ才智ヲキハメサセ給フノミニアラズ天下ノマツリゴトヲヨクキ、オカセ給テ、御即位ノ後、サマノ善政ヲオコナハレケルナカニ、諸國ノ重任ノ功トイフコトナガク停止セラレケル時、興福寺ノ南圓堂ヲツクレリケルニ、國ノ重任ヲ關白大二條殿藤原マダテ申サセ給ケルニ、コトカタクシテタビ、ニナリケレバ、主上逆鱗ニオヨビテオホセラレテ云ク、關白攝政ノオモクオソロシキ事ハ帝ノ外祖ナドナルコソアレ、我ハナニトオモハムゾトテ、御ヒゲヲイカラカシテ事ノ外ニ御ムツカリアリケレバ、殿座ヲタチテイテサセ給フトテ、大聲ヲハナチテノタマハク、藤氏ノ上達部ミナマカリタテ、春日大明神ノ御威ハケフウセハテヌルゾトイヒカケテイデ給ヒケレバ、氏ノ公卿、マコトニモ一人モノコラズミナ座ヲタチテ殿ノ御トモニイデケレバ、事ガラオビタシクゾアリケル、

〔古事談〕王道一后二寬治比、行幸河出御之時、左府源已下六列立、右府源巽角石ニ尻ヲ懸テ被坐テ、宿老ノ大臣帝祖ナドハ、カヤウニテ居タルゾト被云ケリ、

〔愚管抄〕清盛が子共重盛宗盛左右大將になりけり、我身は太政大臣にて、重盛は内大臣左大將にて在ける程に、中承安元年十二月十四日、この平大相國入道盛が女高倉を内せさ

せて、やがて同し二年二月十日立后、中宮とてあるに、皇子を生ませまゐらせて、いよく帝の外祖にて世を皆思ふさまにとりてんと思ひけるにや、様々の祈どもして有けるに、先は母の二位平日吉に百日いのりけれど、ゑるしもなかりければ、入道云やう、われが祈るゑるしなし、今見給へ、祈出でんと云て、安藝國嚴島をことに信仰したりける上、はや船をつくりて、月詣を福原より初て祈りける、六十日はかりの後、御懷妊と聞えて、治承二年十一月十二日、六波羅にて皇子誕生、思ひの如くありて、思さまに入道帝の外祖になりけり、

〔平家物語〕我身のえいぐわの事